



公募テーマ：

「産業構造審議会 教育イノベーション小委員会  
「中間とりまとめ」の論点の社会実装」に関するテーマ

# 教育長が主導する学校や学びの転換プログラム実証事業

最終成果報告書

事業者名  
株式会社 先生の幸せ研究所

## 担当者情報

- 所属・役職：株式会社 先生の幸せ研究所・取締役
- 氏名(フリガナ)：若林 健治 (ワカバヤシ ケンジ)
- メールアドレス：wakabayashi@imetore.com
- 電話番号：050-5357-3317

2024年2月22日

# 実証事業サマリ：教育長が主導する学校や学びの転換プログラム(先生の幸せ研究所)

## 実証の背景と成果

**背景**

学習指導要領の改訂から数年が経過しているが、学習者主体の学び（個別最適で協働的な学び）への転換はなかなか現場に浸透していない状況

教育長や指導主事のリーダーシップによって「学びの転換」を推進できる環境を醸成する



**成果**

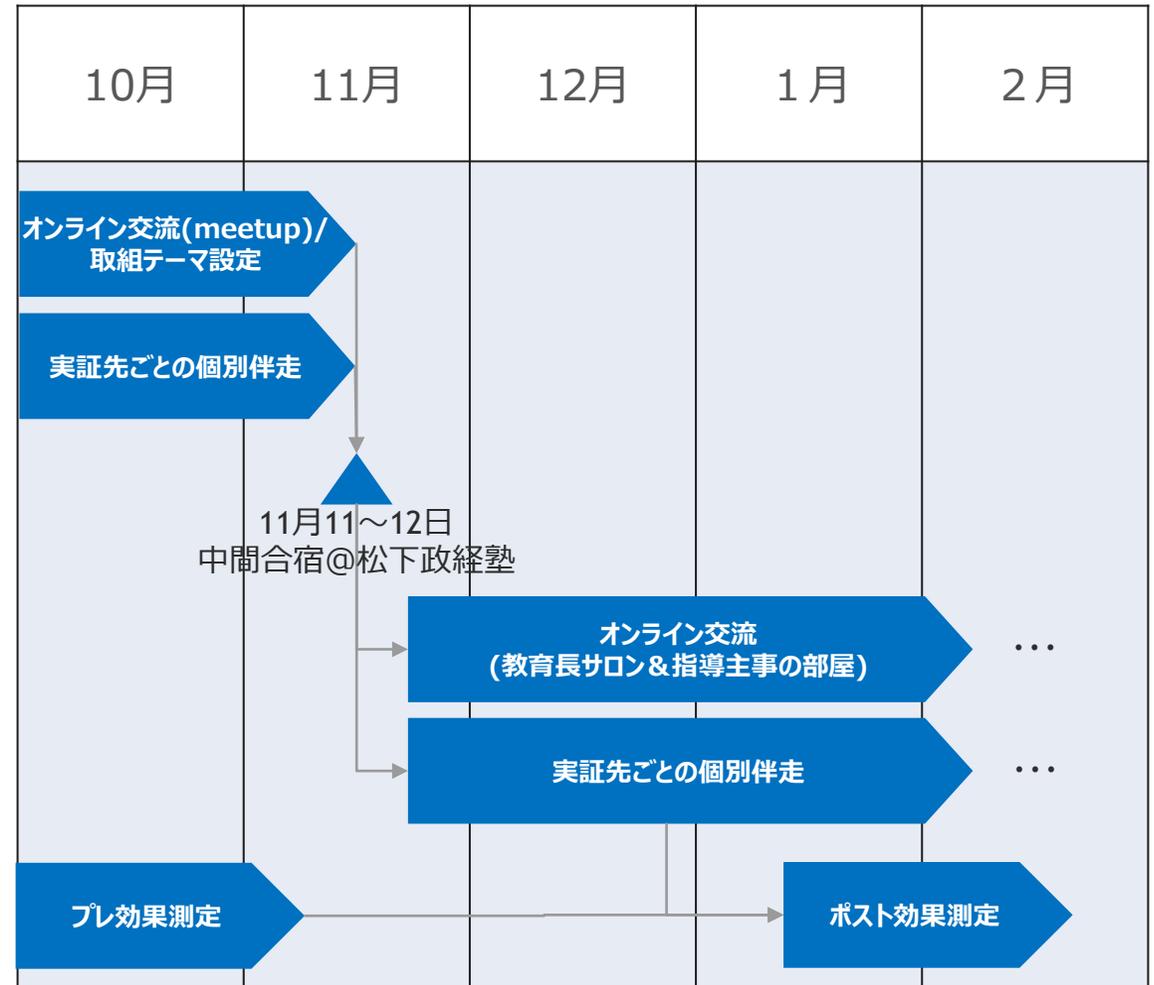
①**教育長・指導主事向けプログラムの実装と自治体内での普及・展開プラン策定**

- 教育長・指導主事を中心とした自治体単位での個別最適な伴走支援
- 教育長・指導主事間での協働的なネットワークをつくる場づくり（合宿やオンライン）
- 自治体内で教委⇒学校⇒子どもの学びへの連鎖反応を起こすための普及展開プラン

②**教育長ネットワークや自治体間での相互参照を活かした全国への普及・展開ロードマップ策定**

- 各自治体や学校への個別伴走と、自治体間の協働によって、向こう10年で全国への普及・展開を目指す

## 実証内容



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

# 1. 事業者

## 会社概要

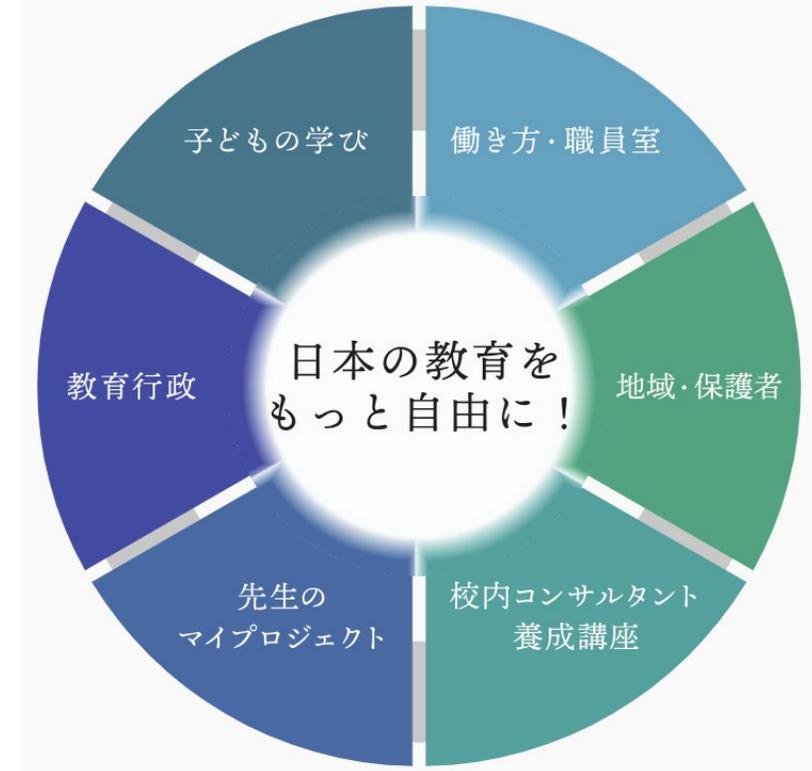


**社名** 株式会社 先生の幸せ研究所

**設立日** 2015年10月27日（2022年10月に株式会社化）

**代表** 澤田 真由美  
高い専門性を持ったメンバーが、学校園や教育行政専門でコンサルティングを実施

## サービス内容



### 【主な実績】

- 各自治体の事業で全国100校以上に通年の伴走支援を実施
- その他、教育長・教育委員・学校向けの研修・講演多数
- 「未来の教室」ではR3、R4に学校や自治体向けプログラム実証

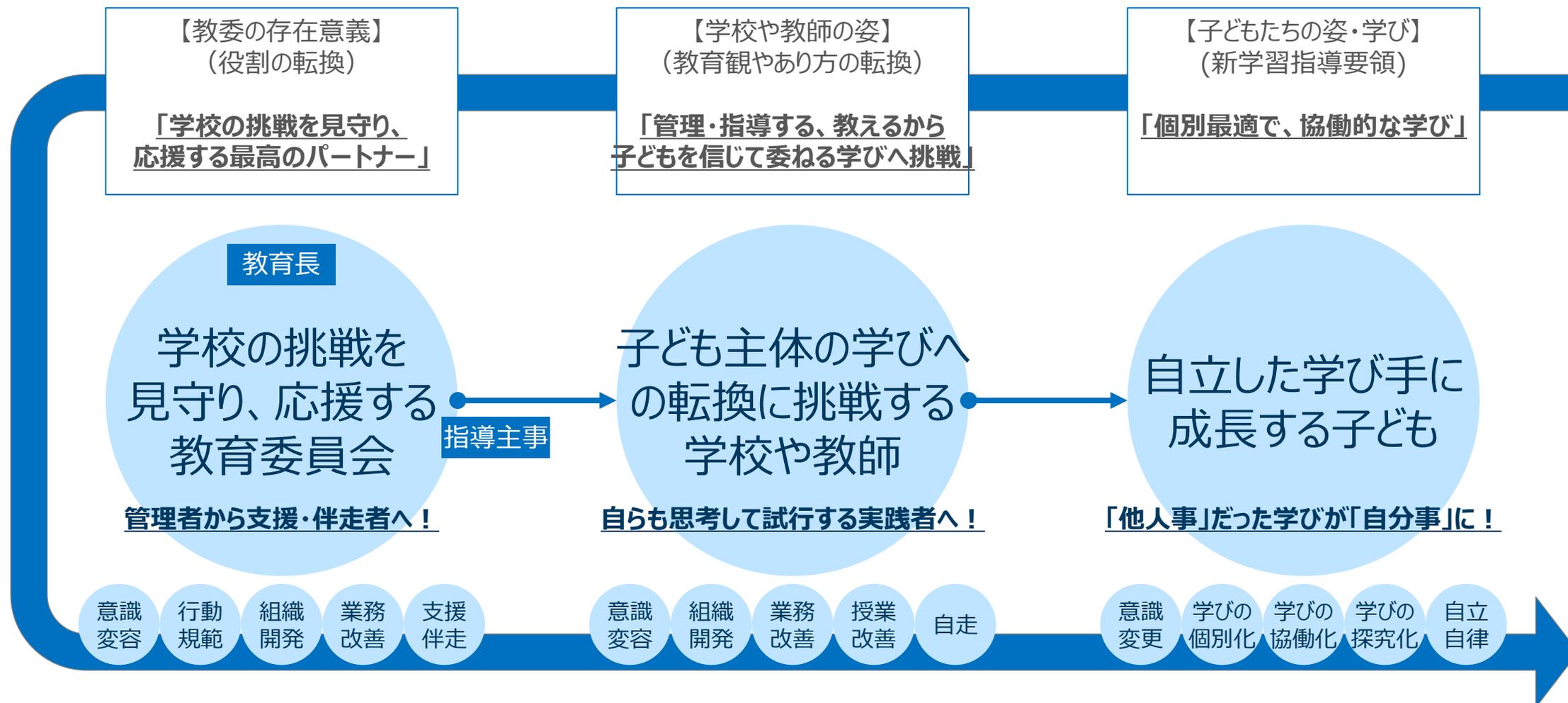
# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 2. 背景と目指す姿

(背景) 学習指導要領の改訂から数年が経過しているが、学習者主体の学び（個別最適で協働的な学び）への転換はなかなか現場に浸透していない状況  
(目指す姿) 教育長や指導主事が変化の源になって各自治体内で「学習者主体の学びへの転換」を起こし、転換の連鎖が自律分散で広がっていく



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 3. 実施体制・実証フィールド

### 実施体制

事業受託者：株式会社 先生の幸せ研究所  
統括責任者：澤田 真由美（代表取締役）  
執行責任者：若林 健治（取締役）  
渉外担当：若林 健治 ※兼任  
実務担当：澤田 真由美 ※兼任  
若林 健治 ※兼任  
大野 大輔  
青山 光一

アドバイザー/ゲスト講師：

- 信州大学教職支援センター 荒井 英治郎 准教授
- 開善塾教育相談研究所長 藤崎 育子 様
- 板橋第十小学校CS委員長 塚本 忠行 様

### 実証フィールド

#	実証自治体	教育長枠	指導主事枠
1	青森県	✓	—
2	福島県	✓	—
3	山梨県	✓	—
4	福島県福島市	✓	✓
5	埼玉県羽生市	✓(代理参加)	—
6	埼玉県ふじみ野市	✓	✓
7	東京都世田谷区	✓	✓
8	東京都利島村	✓	—
9	神奈川県鎌倉市	✓	✓
10	神奈川県逗子市	✓	✓
11	神奈川県葉山町	✓	✓
12	滋賀県湖南市	✓	✓
13	奈良県三宅町&川西町	✓	✓
14	大阪府大東市	✓	✓
15	鹿児島県伊仙町	✓	✓

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

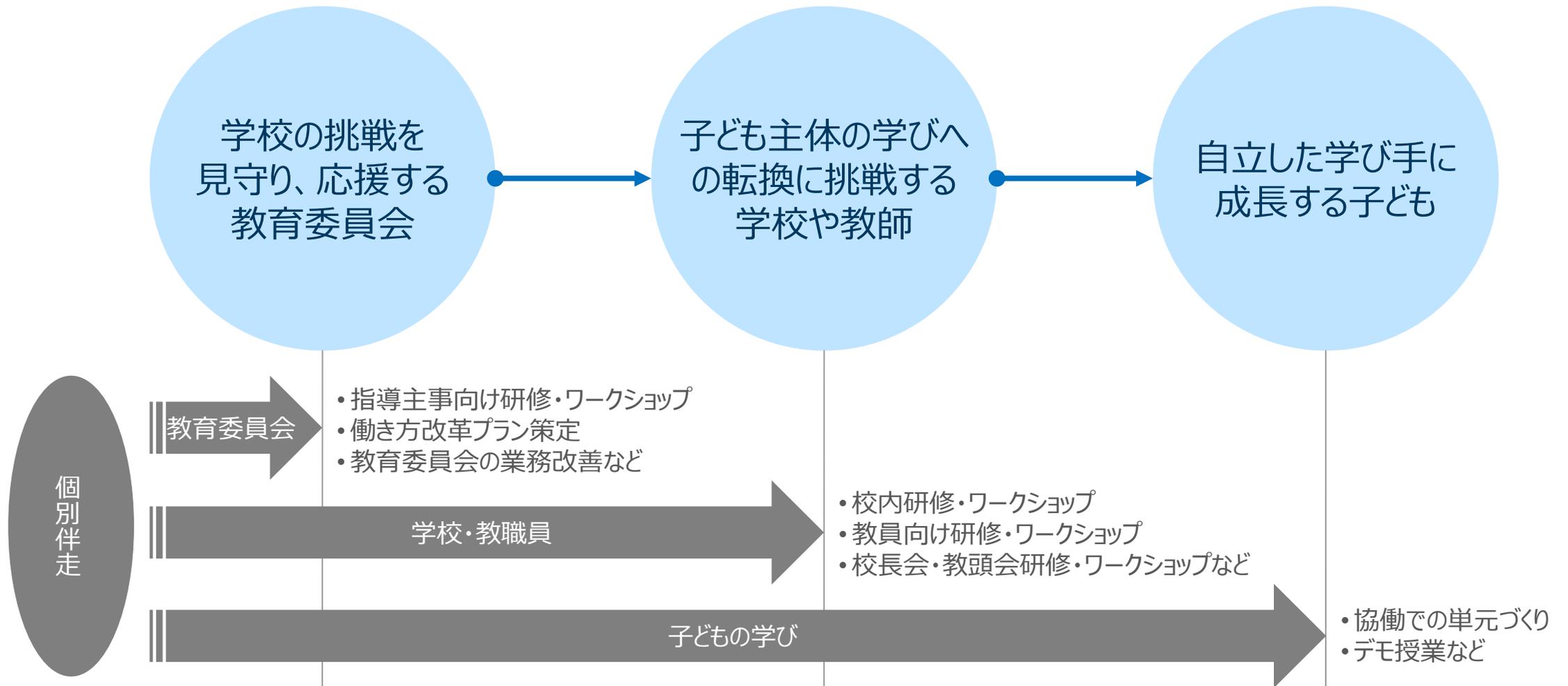
Appendix

## 4. 実証内容概要

	狙い	取組内容
①個別最適な実践 (伴走支援)	各実証先や参加者の現状、課題感から取り組みテーマを設定し、個別最適な伴走支援を通じて「学習者主体の学びへの転換」に向かう変化を起こしていく	各自治体・参加者のテーマに応じた個別伴走支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>指導主事や教員向け研修＋デモ授業（学びの転換や授業改善）</li> <li>各学校のニーズに応じた校内研修（不登校支援、CSなど）</li> <li>校長会・教頭会研修（学校の創造的な余白創出）</li> <li>次期働き方改革プランの策定</li> <li>教育委員会の業務改善</li> </ul>
②協働的な場づくり・実践共有・ネットワーク	教育長、指導主事同士が自治体の垣根を越えて安心して話し合える場や実践交流を通じて関係性を深め、協働的な取り組みの連鎖を生み出していく	教育長・指導主事ごとの交流や実践共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインでの交流（教育長サロン、指導主事の相談部屋）</li> <li>対面での中間合宿（11月11～12日@松下政経塾）</li> <li>グループLINEでのカジュアルな情報交換</li> <li>研修や実践の相互視察</li> </ul>
③効果測定	①②の成果を定量的、定性的に測定することで実証プログラムの有効性や参加者の変化を検証する	定量的調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の新しい専門性に関する資質向上（チェンジメーカー/アクティブラーナー/ファシリテーター指標）</li> </ul> 定性的調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者インタビュー</li> <li>デモ授業を通じた教職員や子どもたちの反応や声</li> </ul>

## 4. 実証内容詳細①) 個別最適な実践 (伴走支援)

各実証先や参加者の現状、課題感から取り組みテーマを設定し、個別最適な伴走支援を通じて「学習者主体の学びへの転換」に向かう変化を起こしていく



## 4. 実証内容詳細②) 協働的な場づくり・実践共有・ネットワーク

教育長、指導主事同士が自治体の垣根を越えて安心して話し合える場や実践交流を通じて関係性を深め、協働的な取り組みの連鎖を生み出していく

### プログラム実施内容

#### ■プログラム概要

個別面談+キックオフ  
(オンライン)  
時期:8~9月

- 初回キックオフで、参加者同士の関係構築や関心のあるテーマ・課題感などを共有する
- 共に歩む仲間たち(実証フィールド、伴走者)と一堂に会することで励まし合い、高め合えるコミュニティをつくる

教育長サロン/  
指導主事の部屋  
(オンライン)  
時期:10~2月

- オンラインで定期的な待ち合わせ場所をつくり、現在取り組んでいることや関心の高い共通テーマなどで刺激を受ける(※以下は参考例)
  - ✓ 教育長のリーダーシップや組織開発・運営
  - ✓ 指導主事としてどのように学びの転換を起こしていくか
  - ✓ 学校とのコミュニケーションや訪問時のスタンス
  - ✓ 授業改善×業務改善の二刀流で働き方改革
  - ✓ 切れ目のない不登校支援

中間合宿  
(対面)  
時期:11月

- 他者と対話しながら教育課題や自分自身に向き合い、どんな風に変えていきたいか想いを馳せる
- コミュニティに集う全国の仲間と語り合い、繋がりや有機的な化学反応を生み出す(※以下はプログラムの一例)
  - ✓ 自分と学校の可能性を知るクリティカルシンキング
  - ✓ 個人でのテーマ出しと対話・アクション検討
  - ✓ 自治体ごとに今後に向けた対話

その他  
時期:随時

- デジタルワークスペース、SNSなどで双方向のコミュニケーション
- Closedな空間で表に出せない話もしあえるコミュニティ形成

### 中間合宿

■場所: 松下政経塾@茅ヶ崎  
(<https://www.mskj.or.jp/>)

松下政経塾とは、松下幸之助が設立した、未来のリーダーを育成する公益財団法人であり、本プログラムの趣旨に合った場所として選定



■日程: 1泊2日(11月11-12日)

■プログラム案:

- 在り方を問い直す自己内対話
- 各地域の未来の姿を描く(目的地)
- ネットワーキング、実践交流



### 実施サイクル



• 安心して話し合える場づくりで横の関係をつくり、励まし合い・高め合い  
• 事務局内、または学校で実践することで試行錯誤しながら変化を生み出す

## 4. 実証内容詳細③) 効果測定

### 測定方法

#### ■ 検証する内容

本プログラムでの協働や実践を通じて、参加者の変化を測定する  
(新しい専門性の獲得)

#### ■ 検証方法

本実証事業の事前・事後で定量、定性的な調査と評価を実施

- 定量的調査
  - オリジナルの質問項目を利用して新しい専門性①～③の獲得に関するアンケート調査を実施
  - 調査対象は各プログラム参加者（教育長、指導主事他）
- 定性的調査
  - 上記のアンケート回答内容を基に、参加者へのインタビュー調査を実施
  - その他、実際のデモ授業などを通じた教職員や子どもたちの反応や声を抽出
- 分析方法
  - 上記の調査結果及び具体的な実践内容を基に、「本プログラムを通じて参加者の資質にどのような変化が起こったのか？」を定量・定性的に分析

### 調査項目

#### ■ 調査項目例

定量的調査については新しい専門性①～③に該当する調査項目を設計

- ① 当たり前を問い直し、政策や現場の変革を後押しする「チェンジ・メーカー」であること
  - 当事者であろうとし自ら率先して行動する力
  - 考えたことを形にする力
  - 学校や社会は変えられると思う力
- ② 未来の教育に必要な教育政策を探求し続ける「アクティブラーナー」であること
  - 経験にとらわれずに視野を広げ「そもそも」を考え続ける力
  - 困難を乗り越えようとする粘り強さ
  - 事務局内職員に限らず必要な人とネットワークをつくる力
- ③ 組織全体や学校や地域との納得解を生む質の高い対話の「ファシリテーター」であること
  - 多様な意見に耳を傾ける力
  - 個人や組織の可能性を最大限発揮させる力
  - より確からしい納得解を集団として作り出せるように導く力

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

## 4. 実証結果概要

	結果
①個別最適な実践 (伴走支援)	<p>設定されたテーマに応じて具体的な変化や次年度以降のアクションプランを策定した</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 教育委員会向け: 学びの転換、授業改善×業務改善の二刀流による働き方改革プランの策定、教育委員会事務局の業務改善などを実施し、次年度以降の施策やアクションプランを検討した</li><li>• 学校や教員向け: 学びの転換、余白の創出、不登校支援、CSなどニーズに応じた研修ワークショップを実施し、次年度以降に本格的な取り組みを始める足場をつくった</li><li>• 子どもの学び（授業）: 協働での単元づくりやデモ授業を通じて、具体的に「学びの転換後の姿」を示した</li></ul>
②協働的な場づくり・実践共有・ネットワーク	<p>協働の場（オンライン＆合宿）での語り合い、実践交流やネットワーキングを通じて、様々な取り組みが他の実証自治体や参加者に波及する連鎖反応が起こった</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 中間合宿: 松下政経塾という特別な場所の持つ力も借りて、教育長という孤独な立場や自治体内に閉じた世界がひらき、自分とじっくり向き合うことで実現したい世界やこれから目指す方向性が明確になった</li><li>• 実践交流: 参加者同士のネットワークや交流が自然とうまれ、各地での実践を視察したり、得られた知識や実践を持ち帰り、実践する連鎖反応が起きた</li></ul>
③効果測定	<p>上記①②の実践を踏まえて定量的、定性的な変化/効果を測定した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 定量的調査: 多くの測定項目で統計的に有意な数値の向上が見られた</li><li>• 定性的調査: 特に合宿などの協働を通じて、外部の刺激・自治体間の違いや共通項の発見、新たな知識・ネットワークから自己変容・行動変容につながったという声が多くあがった</li></ul>

## 参考. 実証自治体別のテーマ設定/主な実践内容のまとめ

#	実証自治体	個別テーマ	主な実践内容
1	青森県	—	・N/A（プログラム途中から実践交流が中心でのご参加）
2	福島県	学びの転換/働き方改革	・次期教職員多忙化解消アクションプランの策定に向けて作成の観点や切り口、具体的な施策などをアドバイス
3	山梨県	—	・N/A（プログラム途中から実践交流が中心でのご参加）
4	福島県福島市	学びの転換/働き方改革	・授業改善×業務改善の二刀流による働き方改革の実現に向けたモデル校の創出と、市内展開を見据えた教員・指導主事向けの研修・ワークショップを実施⇒教育長より次年度の教育課程編成などに関する方向性を提示
5	埼玉県羽生市	学びの転換/働き方改革	・教頭会での研修・ワークショップ開催＋山梨県の文書削減プロジェクトを参考に次年度の施策に組み込み
6	埼玉県ふじみ野市	学びの転換/働き方改革	・12月からのプログラム参加で市内モデル校、教頭会向けに学びの転換や働き方改革などの研修・ワークショップ開催
7	東京都世田谷区	学びの転換/働き方改革	・最終的に自走する学校を目指し、授業改善×業務改善の二刀流による働き方改革の実現に向けた計画検討
8	東京都利島村	学校づくり/学びの転換	・小規模自治体の特性を活かし、希望する教員に対して1on1でコーチングを実施し、次年度以降は島全体へ広げる計画
9	神奈川県鎌倉市	学校づくり/学びの転換	・教育委員会のあり方からじっくり向き合いつつ、教育長の探Qサロンや次期働き方改革プランの素案検討など幅広く取り組む
10	神奈川県逗子市	学校づくり/学びの転換	・市内全8校を訪問⇒個別ニーズや課題感を把握⇒校内研修という流れで各校の主体的な取り組みを広げていく ・その取り組みを通じて指導主事自身も伴走ノウハウを学んでいく
11	神奈川県葉山町	教委の働き方改革	・教育委員会自身の働き方改革を進めるため、タイムマネジメント研修・ワークショップ開催⇒今後は組織全体の取り組みへ
12	滋賀県湖南市	学びの転換/働き方改革	・授業改善×業務改善の二刀流による働き方改革の実現を目指して外部講師の研修などを実施
13	奈良県三宅町&川西町	学校づくり/学びの転換	・小規模自治体の特性を活かし、各校の状況に応じてアプローチ
14	大阪府大東市	学校づくり/学びの転換	・大日向小や山吹小への視察などを通じて、指導主事自身の学校観・教育観をアップデート⇒市内での実践へ
15	鹿児島県伊仙町	学校づくり/学びの転換	・校長会での研修⇒希望する学校・教員への校内研修＋デモ授業で自主性を大切にしつつ、学びの転換の輪を広げていく





# 5. 実証結果詳細①) 個別最適な実践 (伴走支援) ※一部抜粋

教育委員会向け：学びの転換、授業改善×業務改善の二刀流による働き方改革プランの策定、教育委員会事務局の業務改善などを実施し、次年度以降の施策やアクションプランを検討した

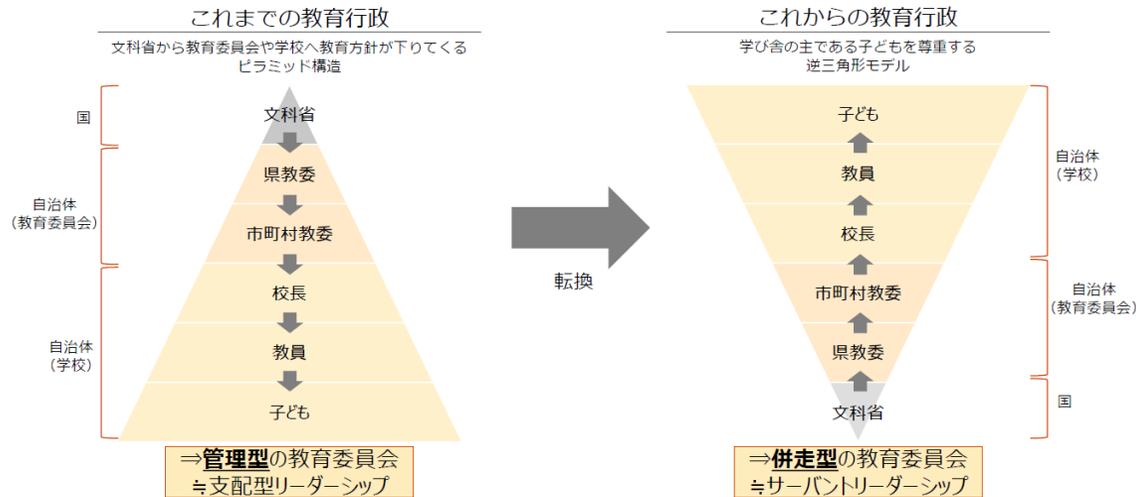
## ■教育長・教育委員会のあり方を問い直し

鎌倉市

### 教育長・教育委員会の目指す姿

### 学校を助け、支え、励ます伴走型の教育委員会へ

- これまでの教育行政では、文科省・教育委員会・学校と教育方針が下りてくるピラミッド構造
- 今後の教育行政においては、学び舎の主である子どもの声に耳を傾け、子どもたちにとってより良い学び舎を構築する逆三角形モデルに転換することが重要であり、それに伴い教育委員会のあり方も変化させていく必要がある



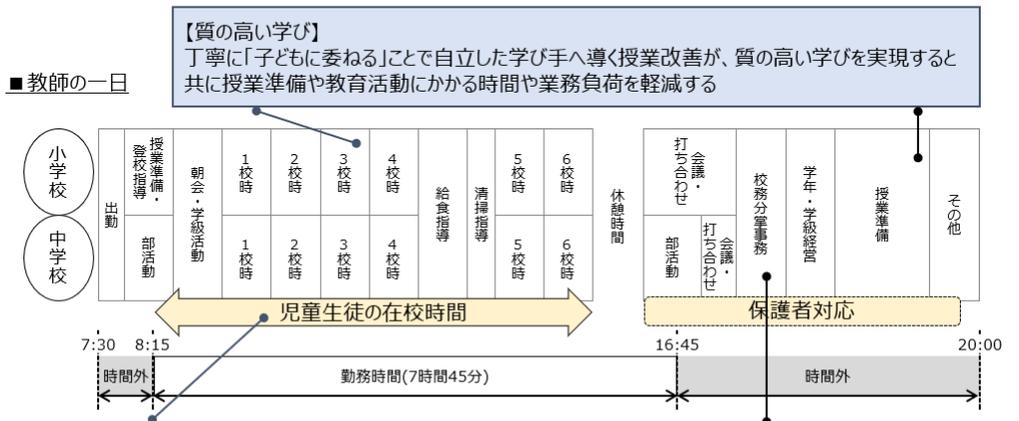
## ■働き方改革に関するプランや実践

福島県 世田谷区 鎌倉市 羽生市 ふじみ野市

### 「質の高い学び」と「持続可能な学校」を同時に実現するために必要な観点

- 【質の高い学び】：時間をかけ過ぎずに授業や授業以外の教育活動全般で質的な転換を図る方法は？
- 【持続可能な学校】：ほぼ全ての仕事を勤務時間内に終わらせるようにする方法は？

### ■教師の一日



- 【持続可能な学校】
- ① 放課後に教員の創造的な余白を確保するため、教育課程の編成を見直す(時程変更、予備時数削減等)
  - ② その他の業務は削減/縮小/精選/交代などの方法で改善・効率化を進める

# 5. 実証結果詳細①) 個別最適な実践 (伴走支援) ※一部抜粋

学校や教員向け: 学びの転換、余白の創出、不登校支援、CSなどニーズに応じた研修ワークショップを実施し、次年度以降に取り組みを始める足場をつくった

## ■ 学びの転換

## ■ コミュニティスクール

## ■ 余白の創出

福島市

(市内教員 + 指導主事向け)

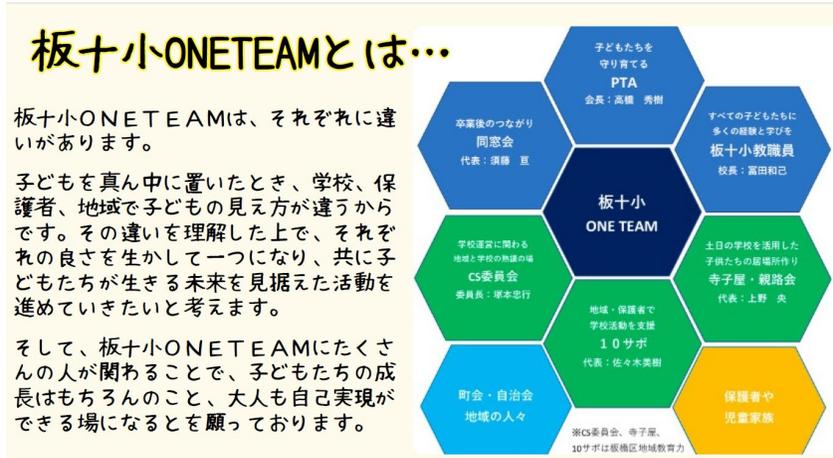
逗子市

(他校の有識者から事例紹介)

福島市

逗子市

私の授業に  
①個別化 ②協働化 ③探究化 ④自己調整  
の視点はすべてある?  
その視点を全て入れて授業を作り直すには?  
(勤務時間内に...)



【お題】 みんなが毎日30分早く帰るには？

- ① 個人作業で、時間を生み出すために手放すことを入力 (5分)
- 付箋1枚に1アイデア
- 時程を変更し 30分下校を早める
- 掃除を週4から 掃除を週2に
- 【書き方のコツ】
- 他の人が読めばわかるよう、出来る限り具体的に!
- △ : 会議の精選
- : xxx会議をxx分/月x回に減らす

## 5. 実証結果詳細①) 個別最適な実践 (伴走支援) ※一部抜粋

子どもの学び (授業) : 協働での単元づくりやデモ授業を通じて、具体的に「学びの転換後の姿」を示した

■ 弊社コンサルタントが飛び込みで単元づくり&デモ授業を実施

伊仙町

(小学校での飛び込み授業の様子)



■ まずはお試しで実際にデモ授業を実施する指導主事も

福島市

これまでの図形の面積を求める学習を生かし、児童が自ら「ひし形」の面積の公式をつくり上げる授業  
～キーワードは「主体性」「個別化」「協働」～

### 1. 導入(一斉)

#### (1) 課題の説明

「クラスの全員が①→②→③に到達すること」

板書 ① 面積を求める

② 公式をつくる

③ (その公式になる)理由を説明する

#### (2) 学び合いの説明

「授業中は立ち歩きOK」「おしゃべりOK」

「もちろん教科書を見てもいい」

「今自分がどこにいるか、マグネームを①→②→③と移動させる」

「自分だけではなく全員が③まで到達できるように」



### 2. 展開(個別・協働)



- 自由な追究、交流、教え合い
- 教師は価値付けと個別支援
- 多様な考え、意見の表出
- 全員が集中、遊んでいる子がいない

【授業後の児童の感想】

楽しかった、自分の力でできた、友達と一緒に教え合えた、自分も説明できた など

### 3. 終末(一斉)

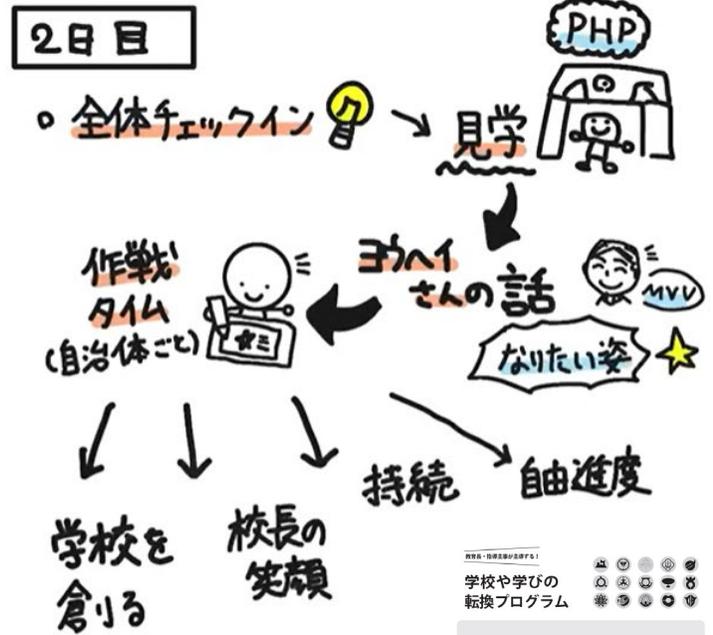


- 児童による説明とまとめ
- 教師の補足

# 5. 実証結果詳細②) 協働的な場づくり・実践共有・ネットワーク

中間合宿：松下政経塾という特別な場所の持つ力も借りて、教育長という孤独な立場や自治体内に閉じた世界がひらき、自分とじっくり向き合うことで実現したい世界やこれから目指す方向性が明確になった

## 11/11~12 未来の教室 @松下政経塾

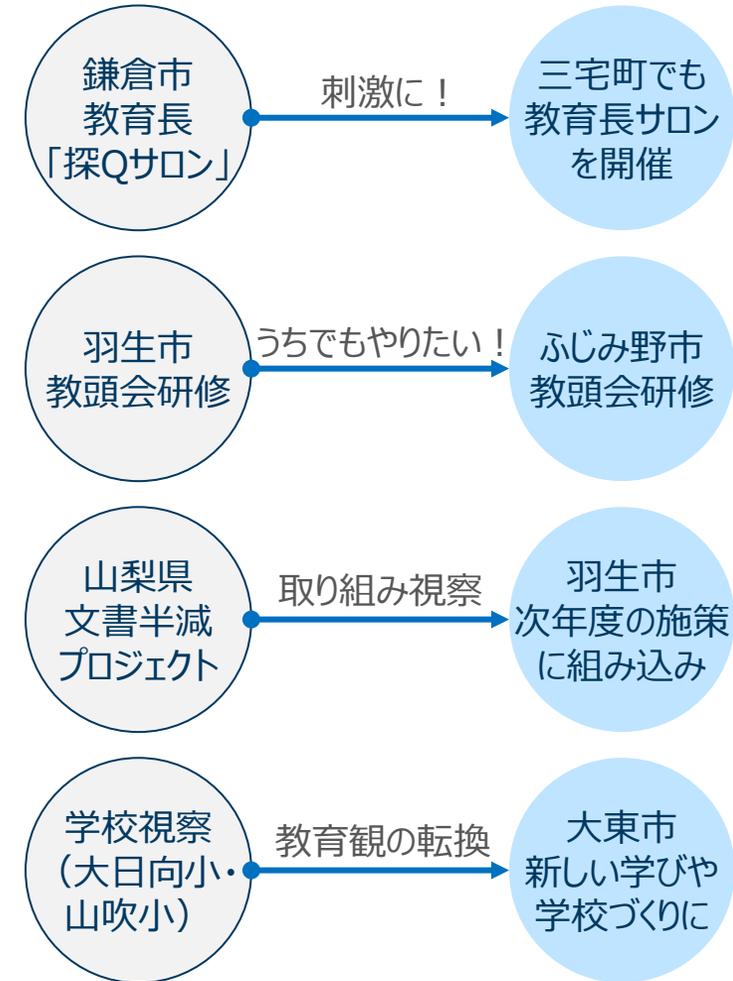


## 5. 実証結果詳細②) 協働的な場づくり・実践共有・ネットワーク

実践交流：参加者同士のネットワークや交流が自然とうまれ、各地での実践を視察したり、得られた知識や実践を持ち帰り実践する連鎖反応が起きた

### 教育長サロン、教育長マイプロ

- ・探究する教育長
- ・互いにコーチングする
- ・互いに価値付け、フィードバックする



## 5. 実証結果詳細③) 効果測定 (定量的調査)

参加者アンケートによる効果測定の結果、多くの項目で統計的に有意な数値の向上が見られた

指標	項目	事前(Pre)の平均	事後(Post)の平均
チェンジメーカー指標	目的・目標の達成や課題の解決のために、色々なアイデアを考えることができる。	4.17	4.81
	目的・目標の達成や課題を解決することができる。	4.17	4.43
	目的・目標の達成や課題を解決するために、同僚と協力することができる。	4.70	5.19
	目的・目標や課題の本質を踏まえて行動できる。	4.04	4.62
	目的・目標や課題に対して、そもその前提を問い直すことができる。	3.91	4.67
アクティブラーナー指標	自分が実現したいことを学ぶことが好きだ。	4.83	5.33
	自分が実現したいことは価値のあることだと思う。	4.87	5.38
	自分が実現したいことを深めることで、自分の世界を広げることができる。	4.74	5.14
	自分が実現したいことを客観的に見ることができる。	3.87	4.24
	自分が実現したいことを深めていく過程で、やりがいを感じるができる。	4.78	5.29
	自分が実現したいことを深めていく過程で、必要な情報を収集することができる。	4.39	4.90
	自分が実現したいことを深めていく過程で、取り組むべき方向に向かって決断することができる。	4.35	4.67
	自分が実現したいことを深めていく過程で、得られた成果と課題を振り返ることができる。	4.43	4.71
	自分が実現したいことを深めていく過程で、協働して取り組むことができる。	4.48	4.90
ファシリテーター指標	同僚たちの気持ちを受け入れることができる。	4.52	4.95
	同僚たちの多様な意見に耳を傾けることができる。	4.65	5.19
	多様な意見が出るように同僚たちの思考を促すことができる。	4.09	4.71
	同僚たちに課題に関する情報を提供することができる。	4.26	4.90
	同僚たちの多様な意見を引き出すことができる。	4.09	4.52
	同僚たちの意識を方向づけることができる。	4.26	4.67
	同僚たちに質問することができる。	4.87	5.38
	同僚たちから対立する意見を引き出すことができる。	3.74	4.29

## 5. 実証結果詳細③) 効果測定（定性的調査）

（参加者インタビューより抜粋）

### 教育長

### 指導主事

本実証プログラムに対する参加した当初と現在で具体的な変化をどう感じているか？  
（モチベーションや意欲の観点）

- 他の教育長の考えを聞くことで、新たな一歩を踏み出す勇気をもらった
- メタ認知の高まりから「自分には周囲の世界を変える力がある」と感じられた
- 外部の刺激で自分自身がアップデートされた

- 外部の刺激を受けて、自分の中に学びや教育観の転換が起きたと感じる
- 合宿を通じてより具体的なイメージが湧き、校長会や学校向けの研修など企画することが出来た

本プログラムを活用した実践や成果にはどんなものがあるか？  
（次年度以降を含む）

- 学習者主体の学びへの転換を起こしていくための仕組みや事務局としてのあり方見直し
- 授業改善×業務改善の二刀流による働き方改革推進プランや学校での実践
- 利害関係のない自治体間でのネットワーク

- 校長会、教頭会での研修
- 学校への伴走支援
- 具体的なイメージをつけるための単元づくりやデモ授業

本プログラムの企画や運営について参加者としての感想

- 教育長という孤独な立場だが、ここでは自分の悩みや愚痴を言い合える安心感があった
- 自由な会話から生まれる気づきや広がり、あえてプログラムをつくりこみ過ぎずに自然発生的なものを目指すことがとても新鮮だった

- 合宿での語りやネットワークは本当に貴重な体験だった
- 事業の開始時期がもう少し早ければもっと多くの実践を生み出せたのではないかと

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

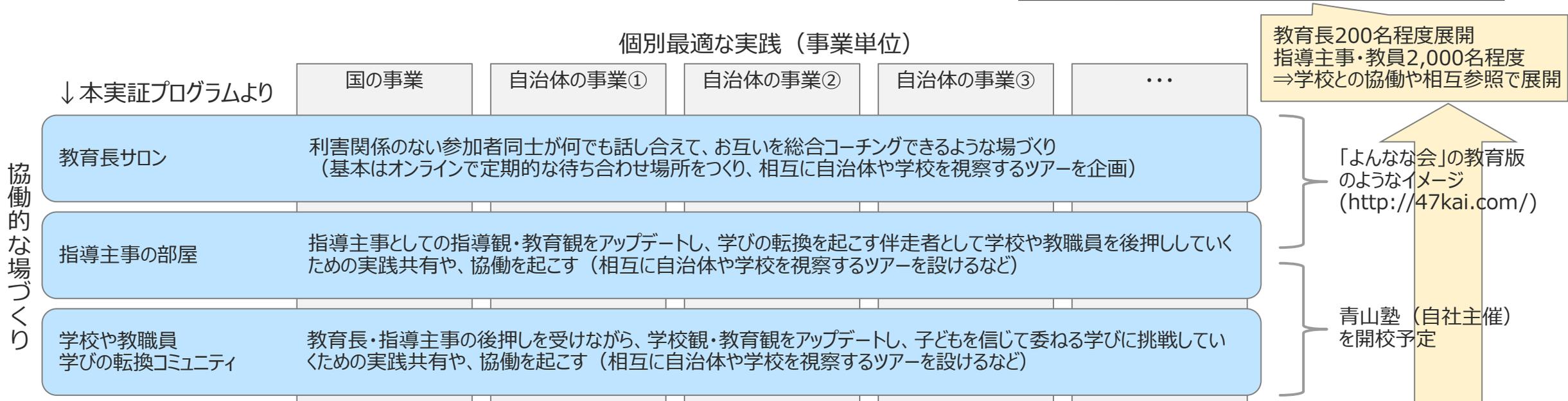
## 6. 今後の自走・普及プラン

本実証プログラムで得られた気づきを基に今後の自走・普及プランを検討する

- ① 各自治体での個別最適な実践（伴走支援）が全てのベースになり、様々な相乗効果が生まれている  
⇒特に学びの転換を同時多発的に起こしていくためには各自治体内で実物を見せる・つくることが重要となる（人はイメージできないものは具現化できない）
- ② 教育長、指導主事の各レイヤーで協働を広げるための場づくりやコミュニティ  
⇒直接的な利害関係がない飛び地で参加者が集まることで、弱みを見せあったり自分の地域にはない良さ/自分の地域にある良さをメタ認知することが出来る

【R6以降の具体的なイメージ】

- ① 国や各自治体の事業を基に、引き続き個別最適な実践を創出していく（伴走支援）⇒**コンサル5～10名の人員体制で直接支援**
- ② 事業をまたがって参加を呼びかけ、教育長・指導主事・学校の協働を起こす場やコミュニティを形成する ⇒**各自治体教育長+指導主事・教員数名で自走**



# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実施体制・実証フィールド
4. 実証内容
5. 実証結果
6. 今後の自走・普及プラン

Appendix

(参考) 単元づくり研修

私の授業に

①個別化 ②協働化 ③探究化 ④自己調整

の視点はすべてある？

その視点を全て入れて授業を作り直すには？

(勤務時間内に...)

# (参考) 単元づくり研修

## ■ワークシート作成例 (単元内自由進度)

「三年とうげ」を読んでオススメの昔話・民話を紹介しよう。(6時間)

STEP① 昔話チャレンジをしよう→ともだちにサインしてもらおう

順番	教科書	1人目	2人目	3人目
1	P66-P68L10			
2	P68L11-P70L10			
3	P70L11-P73L8			
4	P73L9-P76L2			
5	P76L3-ラスト			

STEP② とらえよう → 書いたらともだちと交流しよう → 先生チェック

どんな場所?	
登場人物は?	
どんな出来事がおこった?	
だれが解決した?	
どんなふうで解決した?	
解決した後になんかあった?	

STEP③ ふかめよう → 書いたらともだちと交流しよう → 先生チェック

はじめとおわりで変わったのはだれ?	
何によって、どのように変わった?	
あなたがこのお話で、おもしろいとおもったところは、どんなところ?	

STEP④ あなたが紹介したい昔話・民話を選ぼう  
わたしが選んだ昔話・民話は…

STEP⑤ とらえよう

どこの国のお話?	
はじまりは?	
じけん	
かいげつ	
その後	

STEP⑥ ふかめよう

はじめとおわりで変わったことはどんなこと?	
あなたがこのお話で、おもしろいとおもったところは、どんなところ?	

STEP⑦ おもしろさが友達に伝わるように、紹介する文を書こう → ノートに

月 日 ( ) まで

多様な世者...  
自分に合わせて  
ラスト

## ■授業中の教師の役割・振る舞い

時間	子どもの動き (何が起きているか)	教師の働きかけ (フィードバック)
自由進度はじめ 0分~10分	上位→課題をどんどん進める 中位→課題に取り組み始める 低位→取り組みない・困ってる	★上位の子を観察 →「学び方」の承認・価値づけ →「学び方」を中位の子へ広める
自由進度が進む 10分~30分	上位→承認と価値づけで学びが加速 中位→上位の子の学びを追走する子 上位の子と学び始める(協働) 低位→取り組みない・困っている 上位の子と学び始める(協働)	★「協働的な学び」を見つける →承認・価値づけ ★「理想的な学び」を見つける →承認・価値づけ ★「学べない」から「学べる」状態 になった場面を見つける →承認・価値づけ
そろそろ終わる 30分~40分	上位→課題を達成し協働的に学ぶ 中位→多くの子が課題を達成 低位→関わりながら課題に挑戦	★基本的に上と同じ
ふりかえる	全員が課題を達成	・子どもたちの気づきをシェア ・協働や理想的な学びの承認と価値づけ

## (参考) なぜ、授業改善が働き方改革につながるのか？

「指示・管理する」や「教える」を手放して、真に子どもに委ねる学び（例、自由進度学習）を実践している教師の声より

コンセプト  
(あり方・向き合い方)

- 「子どもは未成熟で教えなければ学べない存在」と考えるのが「子どもは適切なガイドとフィードバックがあれば自ら学ぶ存在」と考えてるかで、これまで教師がお膳立てしていたことを丁寧に「手放す」「委ねる」「子どもの自由裁量を増やす」ことになり、全体として業務負荷が下がる



個別最適で協働的な学びをするために、授業中は「立ち歩きOK」、「おしゃべりOK」です。

自己決定できる子どもから「先生、トイレに行ってもいいですか？」と許可を求められることはありません。

実際の授業

- 導入部分で単元の全体像(ステップとゴール)を示せば子どもたちは自分の力で進められる
- 教師からの適切なフィードバックを受けながら、友達同士の学び合いが学級の文化になる

導入	子どもに委ねる学び (自由進度学習)	説明	子どもに委ねる学び (自由進度学習)	テスト/ 発表

単元全体も、各授業も基本的に同じような流れで進んでいき、教師が一方向的に話す(教える)時間と子どもが主体的に学ぶ時間の比率が逆転する(子どもが自走していくため、教師の役割が「指示・教える」から「承認・価値づけなどのフィードバック」に変わる)

# (参考) なぜ、授業改善が働き方改革につながるのか？

「指示・管理する」や「教える」を手放して、真に子どもに委ねる学び（例、自由進度学習）を実践している教師の声より

授業準備や評価など

- 単元のまとめりでワークシートや手引きを作成するため、準備時間が大幅に削減される
- 課題の評価や丸付けも基準と適切なフィードバックがあれば子ども同士で実施できる

「三年とうげ」を履んでオスメの「音」・「説」を紹介しよう（6時間）

STEP● 音読み・読み方をしようともだちとサインしよう

課題	教科書	1人目	2人目	3人目
1	P66-P68L10			
2	P68L11-P70L10			
3	P70L11-P72L8			
4	P73L9-P76L2			
5	P76L3-ラスト			

STEP● となえよう → 書いてもらってと交換しよう → 先生チェック

どんな場所？  
 登場人物は？  
 どんな出来事があった？  
 だめな解決した？  
 どうなうちで解決した？  
 解決した後にどうなった？

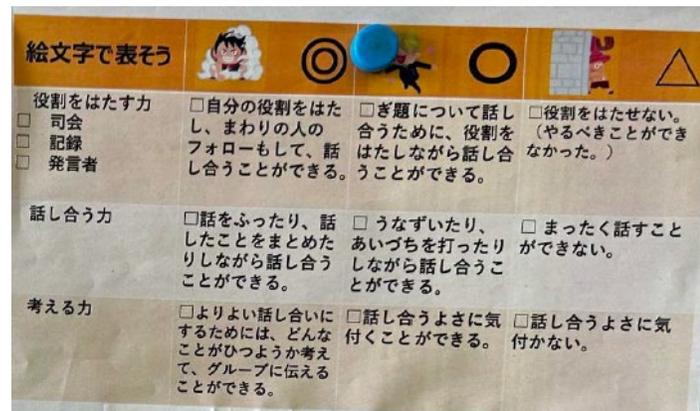
STEP● ぶらえよう → 書いてもらってと交換しよう → 先生チェック

はじめにおわけて  
 変わったのはどこ？  
 何によって、どのようになつた？  
 変わったのはどこ？  
 変わったのはどこ？

STEP● おもしろさが友達に伝わるように、紹介する文を書こう → ノートに

月 日 ( ) まで

課	教材	教科書	ドリル
1	①と②を理解し、△3.△4がかんべきである。 ⇒もつと練習P120△3.△4	P22, P23(P120)	
2	① ② ③ ④ を理解し、△5.△6がかんべきである。 ⇒12×4の算理の仕方を見直しに分かりやすく説明できる。(3人以上) ⇒もつと練習P120△5.△6	P24, P25(P120)	
3	①を理解し、△7がかんべきである。 ⇒24×3の算理の仕方を見直しに分かりやすく説明できる。(3人以上) ⇒もつと練習P120△7.△8	P26, P121	
4	②を理解し、△10. △11がかんべきである。 ⇒32×8の算理の仕方を見直しに分かりやすく説明できる。(3人以上) ⇒もつと練習P121△9.△10	P27, P121	
5	②③④⑤を理解し、△14. △15がかんべきである。 ⇒42×6の算理の仕方を見直しに分かりやすく説明できる。(3人以上) ⇒もつと練習P121△11.△12	P28, P121	
6	△1. △2. △3. △4. △5がかんべきである。 ⇒見えなしてやってみよう！	P29	
7	213×3の算理の仕方を見直しに説明できる。 ⇒見えなしてやってみよう！	P30	
8	①を理解し、△5. △6がかんべきである。 ⇒387×4の算理の仕方を見直しに分かりやすく説明できる。(3人以上) ⇒もつと練習P121△13.△14	P31, P121	
9	△1. △2. △3. △4. △5がかんべきである。 ⇒見えなしてやってみよう！	P32	
10	①と②を理解し、△3.△4がかんべきである。 ⇒もつと練習P122△15.△16	P33, P122	
11	△1. △2. △3. △4がかんべきである。 ⇒見えなしてやってみよう！ ⇒385を練習しよう！	P34, P35	
12	筆算テスト		



その他の効果  
(学級運営・生徒指導など)

- そもそも子どもは大人に一方向的に決められるのが嫌いなので、信じて委ねられることで自分事として学びと向き合うようになり、自然と学力が向上する
- 自己決定や学び合いで学級の雰囲気や関係性が良くなり、トラブル、保護者からのクレーム、不登校なども減少する

自由進度学習を導入して1年4ヶ月後の学力 (2018年1学期)

	国語	算数	社会	理科
4年生の学力	71.9	74.1	81.3	73.9
全国平均	63.7	65.5	68.2	69.6
目標値	53.2	55.2	60.3	66.3
全国との差	<b>+8.2</b>	<b>+8.6</b>	<b>+13.1</b>	<b>+4.3</b>

- ▶ もともと全国との差が平均「-10」だった学力が教科平均「+10」まで向上 1年4ヶ月で20ポイントほど向上
- ▶ 「学習が楽しい」と答える子どもの割合が急増
- ▶ 「勉強しなさい」と声をかける必要がなくなる（保護者の声）
- ▶ 「ずっとこの方法でお願いします」（保護者の声）

(参考) なぜ、授業改善が働き方改革につながるのか？

「教師が教える」－「手厚い指導や支援」＝「子どもが主体的に学ぶ」

学びの転換前 (Before)



学びの転換後 (After)

